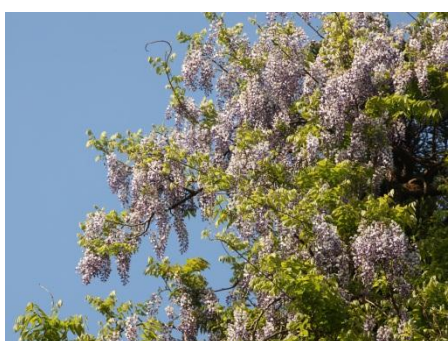




愛川ふれあいの村5月の風景

平成25年 5月 自然のたより

5月初めは細雨が降り、肌寒さが残りましたが、後半になるにつれだんだんと気温が上がり、夏めいてきました。雨と陽の光を浴びた植物は成長し、それを食む昆虫が見られます。子育てにいそしむ鳥達は、昆虫などを捕まえてヒナに与えています。その光景を見ると自然の厳しさと美しさを間近に感じます。



五月晴れと垂れ下がるフジ



さえずるキビタキ（夏鳥）



オトシブミのゆりかご（揺籃）



ミヤマクビツヨウリのゆりかご



虫を喰えているエナガ



虫を喰えているツヨウリ



虫を喰えているスズメ



可憐な花 ミヤコワスレ



イロハモミジのタネ



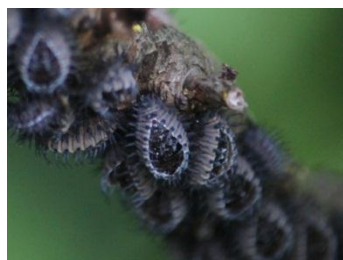
鮮やかな色をしたアヤメ



外国のツツジ カルミア



フジの蜜を吸うクマバチ



テントウムシの蛹



アリさんの配送業



ヒメシロコブソウムシ
（オトシブミの仲間）

★誰が葉を巻いたのかな？★

きれいに巻かれている、この葉っぱ。一体誰が作ったのでしょうか。

葉っぱがぐるりと巻かれているのを発見しました。この葉っぱの中にはオトシブミの仲間の卵が入っています。つまり、これは昆虫の子どもを守る、ゆりかごなのです。この葉っぱの中にはオトシブミの卵が入っており、孵化すると幼虫は葉っぱを食べて生活します。成虫になるころ、葉っぱから出てきます。フジヤクリ、コナラなど様々な木で見ることが出来ます。よく目を凝らし探してみると、ゆりかごがあるかもしれません。



★シカの落し物が届けられました★

「落し物です」と、事務所に届けられたのはシカの角。長さ約 60 cm で、大人の腕ぐらいの長さです。シカの角は人間の爪に似ており、皮膚が盛り上がり出来ます。オスのシカにしか角は生えず、春を境に約一年で生え変わります。1歳のシカだと小さい角で、2歳になると二又、3歳になると三又になります。10歳前後まではシカの年齢と同じ数に分かれるそうです。角が落ちる時はシカ自身も分からないようで、ポロッと落ち、その落ちた角を見て本人(本鹿?)はびっくりして飛び跳ねます。

村周辺のシカは夜になると村に降りてきて、木で角を研いで、お手入れをしているようです。村に来たらシカの角研ぎの痕(皮が剥けてポロポロになっている木)を探してみてください。



▲届けられたシカの角



▲シカが角を研いだ痕

少年とシカの角



発行者：神奈川県立愛川ふれあいの村

TEL：046-281-1611

HP：<http://fureai-aikawa.com/>

写真：吉田文雄・葉青芳

文章・イラスト：葉青芳

編集：葉青芳・加藤文昭

愛川ふれあいの村 で検索★

